

総合的な学習の時間

小原 広士

探究課題の解決を通して、

生活や社会と自己との関わりを深めるチャレンジ学習

I 総合的な学習の時間研究の方向性

1 主題設定の理由

新学習指導要領では、探究的な見方・考え方を働かせることが目標の冒頭に置かれており、探究的な学習の過程が総合的な学習の時間（以下、総合）の本質であることを示しています。総合における探究的な学習とは、「問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく」ことであり、このような学習を通して、「よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」を育成することが求められています。

本校のこれまでの研究では、学習展開や探究のプロセスの充実・改善、思考ツールの活用等に取り組んできました。その成果として、児童が主体的・協働的に問題解決を進められたことが挙げられます。全国学力・学習状況調査の「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」の項目では、8割以上の児童が肯定的な回答をしており、総合における学習の進め方が定着していることもうかがえます。

一方、児童が自分の生き方と探究課題とを関連付けて考えることについては課題があると考えます。生活や社会との関わりにおいて自分は何をすべきかを考えたり、学習活動を通して自分の考えを深めたり、自分の人生や将来について考えたりすることは、総合で育成する資質・能力につながるものであるとともに、実社会・実生活においても重要であると考えました。

そこで、研究主題を「探究課題の解決を通して、生活や社会と自己との関わりを深めるチャレンジ学習」と設定しました。児童の実態に即した探究課題や単元を構想し、探究的な学習の過程を一層重視することで、児童が、自身を取り巻く生活や社会との関わりを見だし、生き方を問い続けられるような学習を目指します。

2 目指す児童の姿とその具体

身近な人々や社会，自然と自己とのつながりを考え，自己の生き方を問い続ける児童

「身近な人々や社会，自然と自己とのつながりを考え」とは、身近な人々や社会，自然と自己とがどのように関わっているかを常に考え、それらの関係性を見いだすことです。

「自己の生き方を問い続ける」とは、身近な人々や社会，自然との関わりにおいて自分は何をすべきかを考えたり、学習活動を通して自分の考えを深めたり、自分の人生や将来について考えたりする「自己の生き方を考える」中で、新たな課題を生み出していくことです。

II 研究内容の具体

1 自己の生き方を問い続ける探究課題と単元構成の吟味・改善

『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（以下、解説）では、目標を実現するにふさわしい探究課題の要件として、3点を挙げています（解説P29）。探究課題は、従来「学習対象」として説明されてきたものに当たり、本校においても「人・もの・こと」で整理して、実践を積み重ねてきました。視点1では、解説で示されている要件に加え、3つの改善の視点（現実・価値・貢献）を設定し、学習対象の重点化を図ることで、児童が自己の生き方を問い続ける探究課題の在り方について研究を進めました。また、児童が探究課題の解決を通して、必要な資質・能力を身に付け、自己の生き方を問い続けていけるような単元構成についても改善を図りました。

《探究課題の改善の視点》

- ①児童にとって、自分事で身近に感じられるもの【現実】
- ②取り組む必然性が感じられるものであること【価値】
- ③取組が自分（たち）以外の人にも役立つものであること【貢献】

【例】6年「私たちのハローワーク」

※下線部は、「解説に示した3要件」+「改善の3視点」から重点化を図ったもの

人	もの	こと	探究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 附属中学校の生徒、教員 ・ <u>様々な職業の人</u> ※保護者を追加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 附属中学校 ・ 自分史 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 附属中学校の生徒、教員との交流 ・ <u>様々な職業の人との交流</u> ・ 自分史づくり ・ 参観日での発表 ・ 卒業式での決意の言葉の発表 	社会で働く人々の姿と自分の将来への展望（キャリア）

注：表内の「様々な職業の人」は「貢献」の視点で、「自分史」は「現実、価値」の視点で重点化されている。

2 自己の生き方を問い続ける「課題の設定」

児童が問い続けていくには、強い課題意識と単元の終末における自ら望む有り様を明確にすることが大切です。その理由は、それらが原動力となって学習課題の設定につながるからです。視点2では、児童が問い続けていけるような課題の設定について研究を進めました。

《課題の設定に向けた手立て》

- 体験活動による課題意識の醸成
 - ・ ゲストティーチャーや視聴覚教材の活用
 - ・ 現地への見学 ※直接体験の重視
- 現在起きている問題あるいは今後起こり得る問題の提示，顕在化（「切実感」）
 - ・ ごみのポイ捨て
 - ・ 資源やエネルギー問題
 - ・ 地球温暖化
- 自ら望む有り様とそれに向かうための障壁の顕在化（「ずれ」、「隔たり」、「憧れ」、「可能性」）
 - ・ 将来の夢（自ら望む有り様：自信をもって伝えたい，障壁：夢が決まっていない）
- 児童の振り返りに基づいた課題の方向付け
 - ・ 学習の成果や課題の洗い出し
 - ・ 疑問や気付きの表出

3 探究課題と自己との関わりを捉える振り返り

総合的な学習の時間においては学習が長期に渡るため、そのプロセスを振り返ることのできる学びの跡の蓄積が大切です。評価に当たっては、以下のような振り返りを工夫し、状況に応じた指導や助言、称賛をして、指導に生かしてきました。

《振り返りの内容》

- 毎時間、振り返る視点を明確にし、文章で記述する。
- 目標に正対する内容を基本的な振り返りの視点とし、発達段階に応じて感想や気付きなど、記述内容に自由度をもたせる。
- ※児童の気付きや変容、自覚について見取り、教師のコメントを記入する。
- ※学習の流れに関わる記述を押さえ、授業でフィードバックする。【例】導入での紹介

＜1年次研究の重点＞

- ・ 探究課題と単元構成の吟味・改善
- ・ 「課題の設定」の過程の充実

Ⅲ 研究実践

6年生実践 『私たちのハローワーク』

実践のテーマ： 児童の探究への必要感を高めることを通して、
追究すべき課題を明らかにする学習

1 研究授業のねらい

本単元のねらいは、自分の適性や職業について調べたり、様々な職業の人の話を聞いたりする活動を通して、各職業の概要や働くことの意義について理解するとともに将来の夢や希望、憧れる自己のイメージをもち、自分の生活や生き方について考えていくことです。

事前調査では、3割以上の児童が将来の夢について、「ない」「決まっていない」と回答し、その理由に「やりたいことが見付からない」「考えたことがない」などを挙げていました。また、なりたい職業を記述している場合についても、その多くは保護者の職業と同じであり、自分との関わりで考えている児童は少ないと推察されました。

そこで、本単元では、児童が自分の将来について自ら望む有り様を明確にできるような活動を計画することで、児童が解決に向けて主体的に取り組むことができる課題を設定し、探究活動を進めていけるようにしました。第1次では、昨年の卒業式のDVDを視聴する場面を設けて、卒業生として決意の言葉を発表することに「憧れ」や「可能性」を感じられるようにし、課題の設定につなげました。第2次では、第1次での学習を振り返ることによって成果と課題を明らかにし、追究していく課題を設定しました。また、様々な職業の人の話を聞いて、働くことの意義について理解を深め、自分の夢を語ることに對して自信をもてるようにしました。3次では、これまでの学習を基に、自分の夢や生き方について見つけ、自身の考えをまとめました。

2 単元の指導計画 (35時間扱い)

次	段階	時間	学習内容・学習活動
第一次	学ぶめあてをもつ	①	◇昨年の卒業式のDVDを視聴して、感想を交流する。 ・堂々と話している。 ・なりたい自分が決まっている。 ◇単元の課題を設定する。 自信をもって自分の夢を語ろう。 ◇解決への見通しをもつ。 ・自分のなりたい仕事や自分に向いている仕事を調べる。 ・実際に働いている人に聞いてみる。
		②	◇前時の振り返りから、1次の課題を設定する。 ・どんな仕事があるのかに興味をもつ人が多し。 ・自分に合う仕事なのか気になる人がいる。 自分に合う仕事は何だろう？ ◇解決への見通しをもつ。 ・自分自身について知る。 ・仕事を調べる。
	追究・確かな解決	③	◇自分自身について知る。 ・エゴグラム ・友達との交流
		④ ⑧	◇仕事について調べる。 ・職業適性検査 ・仕事の具体的な内容、働き方
第一次	まとめ	⑨ ⑩ ⑪	◇集めた情報を整理する。 ・自分にはこんな仕事が向いていそうだ。 ・なりたいと思っていた仕事の内容が分かった。
		⑫ ⑬	◇整理した情報をまとめ、交流する。 ・こんな仕事もあるんだ。 ・友達はこんな夢を考えていたんだ。 自分には〇〇な仕事が向いていそうだ。
第二次	学ぶめあてをもつ	⑭ (本時)	◇1次の学習を振り返り、成果と課題を明らかにする。 ・自分のことや仕事の内容が分かった。 ・仕事のより具体的なイメージや仕事のよさ、大変さはまだ分からない。 ◇2次の課題を明らかにする。 働くということはどんなことだろう？ ◇解決への見通しをもつ。 ・いろいろな職業の人に聞く。 ・親に聞く。 ・見学する。

第二次	追究・確かな解決	⑮ ⑯ ⑳ ㉑ ㉒	◇働いている人の話を聞き、情報を得る。 ・働くことにはこんなよさや大変さがあるんだ。 ・こんなことを考えて仕事をしているんだ。 ◇集めた情報を整理する。 ・仕事は違っても、共通した大事なことがある。 ・様々な努力や苦労があって今の仕事を続けている。
	まとめ	㉓ ㉔	◇整理した情報をまとめ、交流する。 ・働くことは、自分を成長させる。 ・働くことは、自分の人生をよくしていくこと。 働くということは、自分のよりよい生き方を実現させること。
第三次	学ぶめあてをもつ	㉕	◇1・2次の学習を振り返り、単元の課題に立ち返る。 ・自分の性格やいろいろな仕事があった。 ・働くことの意味を考えられた。 自信をもって自分の夢を語ろう。 ◇解決への見通しをもつ。 ・仕事を見直す。 ・自分の「決意の言葉」を考える。
	追究・確かな解決	㉖ ㉗ ㉘	◇自分の夢を再検討する。 ・自分には、この仕事も向いているかもしれない。 ◇現時点での自分の夢を明らかにし、自分の考えをまとめる。 ・その仕事にした理由 ・目標、理想像 ・頑張りたいこと
	まとめ	㉙	◇まとめたものを交流する。 ◇自分の「決意の言葉」を発表する。 ◇単元の学習を振り返る。 今の自分が納得する夢を決めて、発表することができた。

3 本時の学習

(1) 本時の目標

1次での学習の振り返りを通して自分なりの考えをもち、追究したい課題を設定する。

(2) 本時の展開（35時間扱いの14時間目）

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
<p>1 これまでの学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の特性を調べた。 やってみたい仕事について調べた。 <p>2 1次の学習の振り返りをグループで交流・整理する。 《成果（明らかになったこと、学習してよかったこと、分かったことなど）》</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分に向いていることが分かってよかった。 自分のやってみたい仕事の内容が分かった。 いろいろな仕事があることを知った。 <p>《課題（まだ分からないこと、不安なこと、深く考えなければならないことなど）》</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な仕事のイメージが湧かない。 仕事のよさや大変さが分からない。 仕事に就くために自分に必要なことは何か。 <p>3 グループで交流したことを、学級全体で共有する。 《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のこと、自分と仕事との関わり（興味、適性等） 仕事の内容 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ仕事についてもっと知りたい。 自分が選んだ仕事をする（に就く）上で必要な力を知りたい。 仕事のやりがいや大変さを知りたい。 <p>4 全体交流を通して、課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 働くということはどんなことだろう。働くとは。 働くことのよさや大変さは何だろう。 働くことのやりがいとは。 	<p>◇自己の生き方を問い続ける「課題の設定」 研究視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> 1次の学習を成果と課題の視点から整理する。 <p>・成果を明確にすることで、児童が学んだことの価値やよさを感じられるようにする。</p> <p>・課題の中からどれを選択するかを視点を話し合う（全体交流が停滞する場合は、グループ交流を適宜入れていく）。</p> <p>・把握している児童の振り返りと話し合いの様子から、仕事のやりがいや大変さ等に焦点化する。</p> <p>・個人で課題を設定し、ワークシートに記述する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【イ】交流を通して明らかになったことから、解決すべき課題を設定している。（発言の内容・ワークシートの記述）</p> </div>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>働くということはどんなことだろう。</p> </div> <p>5 学習計画を立て、今後の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に話を聞いてみる。 いろいろな職業の人に聞くことが必要。 <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> どんなことを大切にしているのか聞きたい。 働くことの意味を考えていきたい。 	<p>◇探究課題と自己との関わりを捉える振り返り 研究視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに記入する。

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

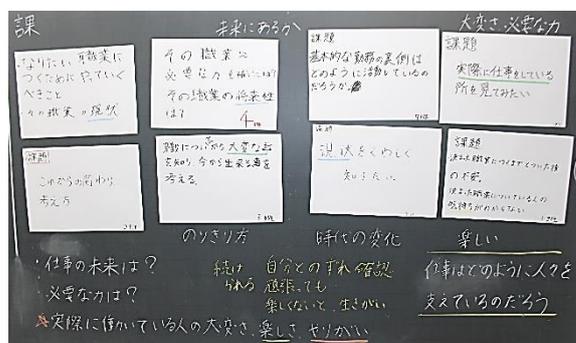
○交流を通して、自分が追究したい課題を考える姿。

題になりました。これは、児童一人一人が話し合いを踏まえて考えた課題をまとめたものです。出されたキーワードやそれらを踏まえた話し合いの内容としては、ねらっていた方向に向かったのですが、結果として表出された言葉が、想定した課題の文言とはややずれた印象のあるものになりました。

児童の振り返りに基づいた課題の方向付けは、児童の明確な課題意識に支えられた学習展開となるので、課題設定の在り方としては有効であったと考えます。また、話し合いによって各自の考えが共有化され学級全体のものとなるのも、課題の方向付けの上では重要でした。

しかしながら、実際に言葉として表現された課題は、児童の話し合いや思考が十分に反映されたものとはなりません。児童の言葉の足りない部分を教師が補ったり言い換えたりするなどして、児童の思考を適切な表現につなげていくことが必要であったと言えます。また、グループでの話し合いが想定した時間を越えて活発になされたため、グループから出された課題を学級全体で吟味する時間が十分に確保できませんでした。成果の部分を前時のうちにまとめておき、本時で課題の部分を重点的に話し合うなどの工夫が必要だったと考えます。

児童の振り返りに基づいた課題の方向付けの場合、話し合いが学習の核となるので、その内容や方向性を調整する教師の役割が、一層重要になることが明らかになりました。



【本時の板書（一部）】

IV 1年次研究の成果と課題

総合的な学習の時間では、研究テーマを「探究課題の解決を通して、生活や社会と自己との関わりを深めるチャレンジ学習」と設定し、「自己の生き方を問い続ける探究課題と単元構成の吟味・改善」「自己の生き方を問い続ける『課題の設定』」「探究課題と自己との関わりを捉える振り返り」の3つの視点から研究を進めました。

1年次研究では、特に「探究課題と単元構成の吟味・改善」「課題の設定」の過程の充実」に重点を置いて、それらの手立ての有効性を検証しました。

1 研究の成果

- 探究課題の3要件と3つの改善の視点を用いて探究課題を設定し、それを基に探究的な学習になるよう単元を構成したことは、児童が自己の生き方を考える中で、新たな課題を生み出していくことにつながりました。
- 児童の振り返りに基づいた課題の方向付けにより、児童の課題意識に支えられた学習展開を図ることができました。
- 毎時間、視点を明確にした振り返りを実施し、記述したものを蓄積していくことは、児童の変容や成長を見取る上で有効でした。また、児童が自身の学びの過程を振り返り、自分に必要な学習を見いだすことにもつながりました。

2 今後の課題

- 児童の思考を適切な言語表現につなげ、それが反映された学習課題になるよう、話し合いを整理する教師のファシリテーターとしての技能を高めていくことが必要です。
- 探究課題の3要件と3つの改善の視点を用いて、他の単元についても探究課題及び単元構成を吟味・改善していく必要があります。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領 文部科学省 東洋館出版社 平成29年7月
- 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年7月
- 初等教育資料 No.990「特集Ⅱ〔総合的な学習の時間〕新学習指導要領に向けた指導の在り方」
文部科学省 東洋館出版社 令和2年2月
- 小学校新学習指導要領ポイント総整理 総合的な学習の時間 黒上晴夫編著 東洋館出版社
平成29年9月
- 課題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法 鈴木敏恵 教育出版
平成24年2月